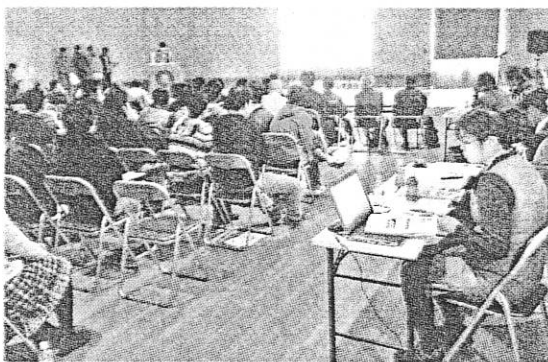


銅合金鑄造・鍛造メーカーである大和合金(社長・萩野源次郎氏)グループは14日、埼玉県三芳町の三芳工場ホールで改善成果発表会を開催した。毎年実施しており、今年で33回目を迎える。約120人が参加。溶解鑄造や機械加工に加え、研究開発や営業など17の改善サークルが幅広いテーマで発表した。

改善成果発表会を開催

大和合金グループ



生産・営業など120人参加

大和合金と、製造品・鍛造品を製造する三芳合金工業が共同で開催。改善サークルは係ごとに組織。発表会には全社員が出席し、日頃の成果を説明した。製品品質や作業効率の向上のほか、安全や拡張活動についてプレゼン。課長職以上の社員に加えて東京工業大学の神尾彰彦名誉教授や、古河電工OBの中野耕作氏らの有識者が審査委員を務めた。

最優秀賞の金賞は、砂型鑄物の生産で砂の使用量を削減したベガササが受賞。大和合金の萩野社長は「改善サークルは昔ながらの手法だが新たな発見もある。生産だけでなく総務や営業も発表し全社的なレベルアップにつながった。今後この火を絶やさず続けたい」と話している。